

## 人々の暮らしを支えるコミュニティソリューション

Toshiba Community Solutions Supporting People's Lives

## 巻頭言

## スマート社会の実現に向けて

Approaches toward Realization of Smart Society

現代社会で電力エネルギーは、毎日の暮らしの中で利用しないシーンがまったく想像できないほど、必要不可欠なものとなっています。ただし、わが国の電力需給と社会の関わり方は、東日本大震災後の電力需給ギャップ発生を契機に大きく変化しました。供給側では、二酸化炭素排出抑制と固定価格買取制度があいまって、再生可能エネルギー電源の導入が急速に進んでいます。一方、需要側では、省エネルギーやピークカット及びピークシフトに取り組むことの社会的な重要性が強く認識されるようになりました。

これを受け、様々な需要家単位で、効率的なエネルギーマネジメントシステム (EMS) 技術の導入が急速に進展しています。また需要家側が供給側と連動して需給を調整するデマンドレスポンス (DR) への取組みも始まっており、2016年に予定されている電力自由化に向けて、更に活性化していくことが期待されています。これらのEMSが、ICT (情報通信技術) の高度化により精緻化され、スマートグリッドや、スマートビル、スマートハウスなどと呼ばれる形で具現化してきています。これらの構成要素をICTとエネルギーで束ね、更には日々の生活を快適にするエネルギー以外の要素とも連動した社会が、いわゆる“スマート社会”であると考えます。

早稲田大学では、スマート社会技術に関する世界トップレベルの研究拠点設立を目指し、2014年7月に“スマート社会技術融合研究機構 (ACROSS)”を発足させました。この機構はスマート社会実現の鍵となる、スマートグリッド、スマートハウス・ビル、スマートモビリティ、スマートヘルスサポート、及びスマートフードの五つの要素を研究対象としています。更に、グローバルな標準規格に基づく技術の普及、展開、利活用の姿をユーザー視点でデザインする“スマート社会技術推進協議会”と、同協議会が構築したビジョンを実現するための技術を社会に実装する“スマート社会技術研究会”を設立し、スマート社会実現に向けた三位一体での活動をスタートしました。スマート社会技術研究会には東芝にも参画いただいています。

東芝は、電力系統システムに関する豊富な実績を持ち、更に世界各国で数多くのスマートコミュニティ実証実験に参画して経験を積んでいます。今後の、安心、安全、快適な社会“Human Smart Community”の実現に向けた取組みに期待しています。



林 泰弘  
HAYASHI Yasuhiro

早稲田大学 理工学術院教授、スマート社会技術融合研究機構長、博士 (工学)

Professor, Faculty of Science and Engineering and  
Chairperson, Advanced Collaborative Research Organization for Smart Society (ACROSS), Waseda University